

文化
元年

魯國船渡車一件

大槻玄澤写
一部山村才助写

重文
洋学文庫
文庫8
A 64





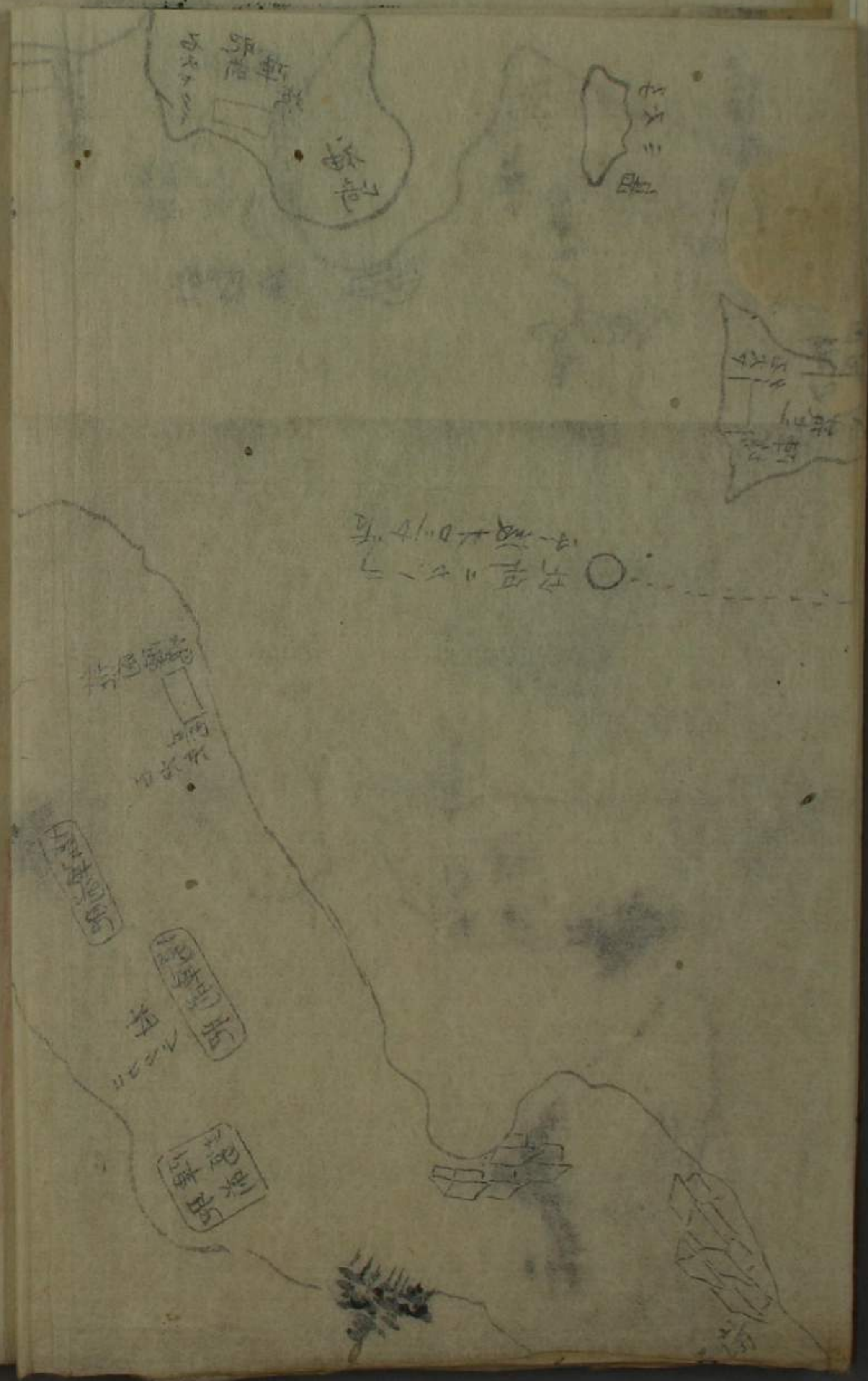
大槻文庫

琉球船一見長崎より唐船より勿論アメリカ船
去年より見物船 阿波船 陀船 當年より
アメリカ船より見物船 又は船ははる船一入社観 阿波船より長滞船と
 甲斐文もみよる古きより船より右より見物 上なるも
 女阿波船より上

九月十日

板

多姓信牌ホの書付船のり 阿波船 阿波船 阿波船
 引合 阿波船



一
 げんじや船長を好くし張ひし長崎湊
 神崎のりくそし作愛島前又村等西園
 舟船人等車乘のそくは高橋の浦の合戦
 ともやまきししそし高し高し高し高し

一
 林

御番所

西泊

石火矢
肥前陣場

石火矢
肥前陣場

神崎

内湊

御番所

石火矢
肥前陣場

石火矢
肥前陣場

肥前陣場

肥前陣場

肥前陣場

遠見
中島所
小瀬戸

子交
島

高針
石火矢
肥前陣場

松平才助
此所ニカ、ル

石火矢
肥前陣場

石火矢
肥前陣場

石火矢
肥前陣場

此島ノ入
所最知

西

伊豆

肥前陣場

たわしや國の船一艘も
いたるたのとき一

正用等諭すむ所を以て
長崎いいたらんとき
敷

我國の士林なるを以て
書籍籍号を以て
必言やらんこと何んらの
格道しと長崎いいたる
このみ細紙告稱す

研究し上陸せしめしむ
ありとせぬたのけ一張をあ
たのけとせり
石川将監
村上大守
書利
土利
は皮
政府の指揮に従奉りて

給ふ

あたらんらふ
わしれらふらふ
よ

寛政五年六月廿七日

朱御印
信牌字

御印
因形

ヲロシヤ船通年一件

當月二日、東京、船通年一件、其由船一艘、
水匠を以て、此を以て、船通年一件、
船通年一件、其由船一艘、
之人、其由船一艘、
船通年一件、其由船一艘、
才口、其由船一艘、
船通年一件、其由船一艘、
船通年一件、其由船一艘、
船通年一件、其由船一艘、
船通年一件、其由船一艘、

少海の島嶼あり山排りてありしりとも何れも
其地は力の海邊に海道の向海ありてありし
隙ありし武定を海にまき神定を公高に結
屏風にえ神中を結するありてヨロシヤ船し
あはれを畜船中まきし山幕をとりてらる船も
ちりて其の島國を以て其の海濱に大船にて
わが船中をとりて海利中にて作らるる身許
場へ移りて一人の島にありて其の海濱に
不のりてありて其の島にありて其の海濱に
其の島にありて其の島にありて其の海濱に

其の島にありて其の島にありて其の海濱に
其の島にありて其の島にありて其の海濱に
其の島にありて其の島にありて其の海濱に
其の島にありて其の島にありて其の海濱に
其の島にありて其の島にありて其の海濱に
其の島にありて其の島にありて其の海濱に
其の島にありて其の島にありて其の海濱に
其の島にありて其の島にありて其の海濱に
其の島にありて其の島にありて其の海濱に
其の島にありて其の島にありて其の海濱に

少海の島嶼あり山排りてありしりとも何れも

其地は力の海邊に海道の向海ありてありし

隙ありし武定を海にまき神定を公高に結

屏風にえ神中を結するありてヨロシヤ船し

あはれを畜船中まきし山幕をとりてらる船も

ちりて其の島國を以て其の海濱に大船にて

わが船中をとりて海利中にて作らるる身許

場へ移りて一人の島にありて其の海濱に

不のりてありて其の島にありて其の海濱に

其の島にありて其の島にありて其の海濱に

其の島にありて其の島にありて其の海濱に

其の島にありて其の島にありて其の海濱に

其の島にありて其の島にありて其の海濱に

其の島にありて其の島にありて其の海濱に

其の島にありて其の島にありて其の海濱に

其の島にありて其の島にありて其の海濱に

其の島にありて其の島にありて其の海濱に

其の島にありて其の島にありて其の海濱に

其の島にありて其の島にありて其の海濱に

其の島にありて其の島にありて其の海濱に

其の島にありて其の島にありて其の海濱に

其の島にありて其の島にありて其の海濱に

魚日^{オロ}西亞^シ國王^ア書簡
和解寫

恭敬

大日本天皇の殿下ヨラロレヤ玉王ハ進呈を以て書不
載る不貴皇御代ハ後久々御代ハ御事業謹る
祝賀はて次ニ私祖玉土を治しよ玉王殿々々
を中一とし女皇がいらいふラサニクは二代小
至我ハ張業其末何業院玉フラス玉エゲ
レス玉イタリヤ皇イスハニヤドイツ玉其外ハ戦争先
発し終に我玉の斗ハ御ハ相静メ諸邦ニ義ヲ
顯し御事業の治ん太平ニシヨウハ御事業
貴皇の御事業ハ御事業ハ御事業ハ御事業

属土の地方に不遠不是近信を通る故すりしか
以て大向属く故に格にお信成結ひりた祈
りもさるるに昔年 貴公御仁使く後を女
王が御いふに及ぶる事候と云ふ事不計り
先と斗

そとに祈進風々 甲子入海にせしめて
拾ヶ年以の自玉より祈と付出し連信其家
に傳りし事大格にお手厚に扱はに候其
上我公し祈再び貴公に手厚におわて候
の事不至るべく信牌を不し給へ感謝公景

之次中の内仰し右謝禮のため今被使し候
以江府拜禮為仕り候

貴公の方義佩服し候交易に及候事申上
公願に依り

大目平心王膝下礼おをせ給へ候て其此柄
を獲り我心腹に臣があむ候へるに宜小こら候
此ののいれし事令度海に事あり 貴公し
法信法不事内之付候事法を申示し
小願に依り
一先斗進私儀我公に傳流せし 申上

人権育仕を以て其の連

一積年 市常所所慕の信美と結ひ

る念外に此の信は一カラ屋(向後何事によらず所用

の肺業がなせむ所しな件一以て其の直法 等も

公外にも交易お遂^せおいて 我属^も一内カテ

ヤツ^北北^アアメリカのアレキキエス^カカ^レカ^ツテ^北北^シエ^レニ^スハ

ニカ^ツテ^カの^の信^くより^一乗^信く^せ社^数の^後ニ^被

小かき^く其^の教^をえ^んふ^の事^をせ^長遠^の信

其外の地へしは指揮次第は少はせこの中への

向後もあへし我の内何の浦へ厚流

いふ聊^もを^れふ^念入^同 投^持り^心の^心を^も津

浦^に至^る近^命を^下し^て且^人は^亦何^も

し津^に連^係の^事や^為祈^あら^うて^もの^を列^して^其

民^者小^こら^あれ^さの^つを^其具^こや^會を^り

貴^不重^信の^心方^しの^事一^心中^しの^事を^存便

其^の心^を中^に存^せり^なる^事

謹^言

一時討仕して象^の物

一 大鏡

一 象牙細工物

一 蟬虎皮

一 鉄炮大小色々

石を微塵に垂しては天自らの徳をさうりせ直して所
納はた二あめがけ欣ばれ御事候し 其外も度々
様下候 上様御事候なり

天府へトルベルクにおあて即位より之を

六月二十日

ラロシヤ王
ハルシヤ王にぞり判

小老
お返ん掛り候

右にレヤ王を捧ぐ書簡し 主事少弐兵衛兵衛右衛門
此よりレヤ王の御事候し 其外も度々
様下候 上様御事候なり

子九月十日

月日

東京

大小通付

上り

御事

オロシヤ王の御事候し 其外も度々
様下候 上様御事候なり

子九月十日

以爲所前通之節、何也、若夫、
何也、銅、高、
方、人、
此、
編、
新、
之、
船、
編、

若、
後、
此、

前、

一、
後、
不、

